

改組の趣旨

「やりたいことを見つける」ための教育システム

- ▶▶▶ 経済環境や産業構造の変化に伴う社会ニーズに柔軟に対応できる体制づくりを行います
- 理工学・農学の主要な分野をカバーする多様なコースの設定
- 卒業後の進路の選択肢・可能性を広げる教育分野の導入
- 1年次に全体を学び、2年次からコース配属する 入学後のコースの選択によるミスマッチの解消

基礎力の向上とより深い専門知識の修得

- ▶▶▶ 学生の適性に合った、各人の学習意欲をかきたてる専門分野の学びを可能にします
- 社会の動き、個人の学びの変化に柔軟に対応できるように基礎力を向上
- 実践的授業の取組みで複眼的視点・俯瞰的視野を養成

「佐賀大学だからできること」を活かすプログラム

- ▶▶▶ 佐賀大学の強みを活かした教育体制の提供を行います
- 地域社会・企業と連携したプログラムの導入
- 地域と連携したキャリアデザイン

社会に求められる教育プログラムの強化

02 基礎学力の強化

■キャリア教育の充実

03 データサイエンス
教育

の設置

地域創生に役立つ人材の育成



基礎



専門性



実践力



対応力

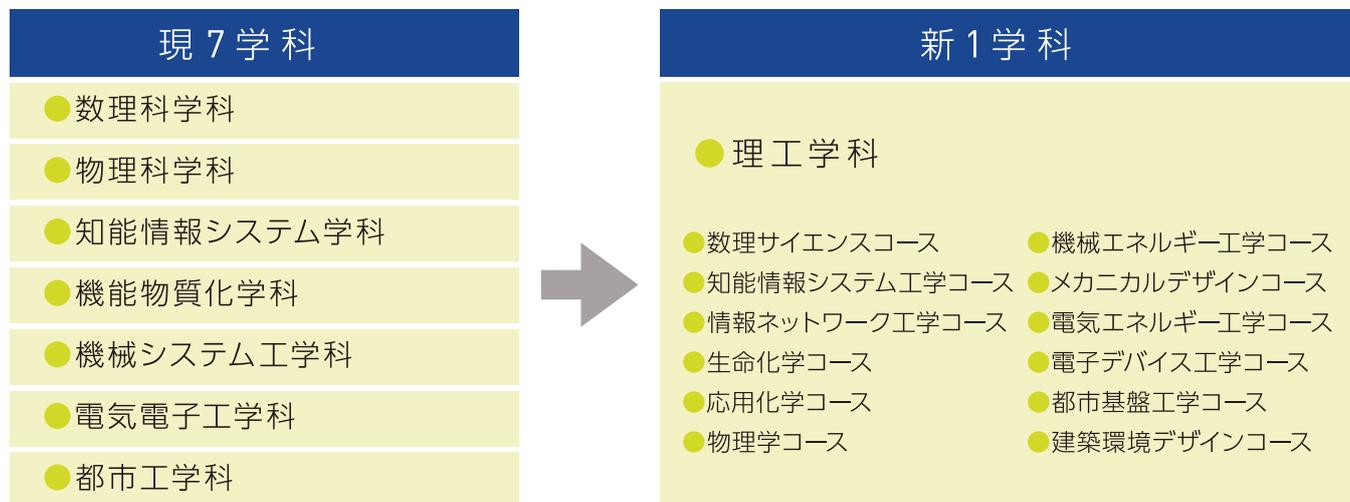


問題
解決力

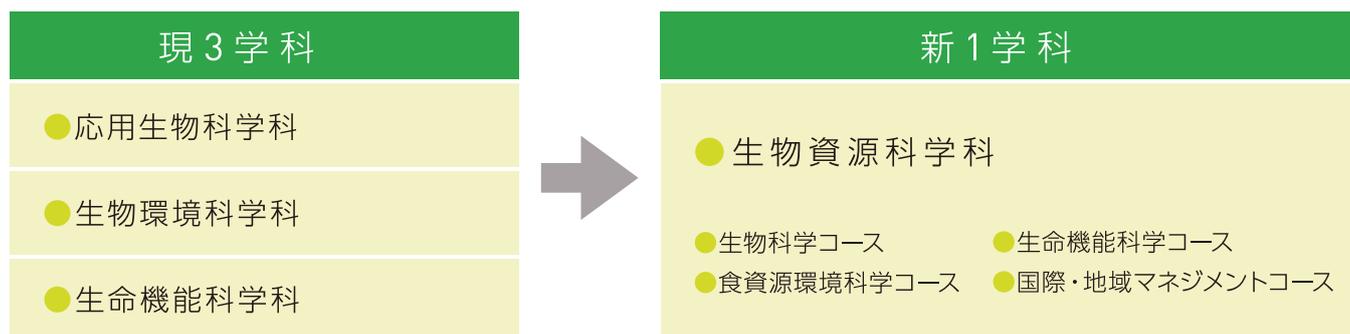
そのための改革

理工学部は1学科12コースへ、農学部は1学科4コースへ

理工学部



農学部



改組のポイント

01 入学後の コースの選択

「何を専門で学ぶ」かは 入学してから決めていきます

「どんな学部で学びたい」かは明確でも、具体的な分野は内容を知ってからという学生や、いろんな分野を学びたい学生もいます。そこで1年次は学科全体の基礎を学び、コースを把握し、2年次から専門コースへ配属と、段階を踏んでコースを選択していきます。しっかりと勉強内容を把握していくことでコース選択がしやすく、また進級してからのミスマッチをなくします。

02 基礎学力の 強化

専門分野を 社会で上手に活かしていく

グローバル化や科学技術の進展に対応すべく、教養教育科目にも力を入れています。情報セキュリティ教育や研究者倫理・技術者倫理教育を行う理工リテラシーなどで、理工系専門分野と社会との連携を学びます。また、これからますます大切になっていく知財教育も、知的財産とは何か、大学が培ってきた知的財産をどう守り、どう活用していくのかを、段階的に学び活かしていきます。

03 データサイエンス 教育

理工学や農学を データから読み解きます

社会のニーズに応えるべく、ビッグデータを活用したデータサイエンスに取り組みます。佐賀大学がこれまでに集積してきた貴重なデータや、社会の膨大なデータを解析し、必要な情報を学問や事業に活かしていく技術と知識を培います。今後ますます増えていくデータの必要性を見極め活かしていく上で、非常に重要な学問です。



新コースについて

● 数理サイエンスコース

代数・幾何・解析などの数学の修得を基に、キャリアパスを想定した確率・統計を学んで、教職・情報技術・金融・保険などの分野での活躍を目指す。

● 知能情報システム工学コース

情報処理の基礎技術を確実にマスターし、その上に人工知能、データサイエンスなどのコンピュータを高度に利用する分野での活躍を目指す。

● 情報ネットワーク工学コース

情報処理の基礎技術を確実にマスターし、その上にネットワーク、ソフトウェアなどの高度基盤技術の開発とシステム実現での活躍を目指す。

● 生命化学コース

化学の基本となる無機化学、有機化学、物理化学、分析化学を学び、化学者として化学、製薬、食品などの分野での活躍を目指す。

● 応用化学コース

材料化学を核とし、化学と工業の融合を進め、材料開発や化学工学に強い化学技術者として有機・無機工業化学などの分野での活躍を目指す。

● 物理学コース

科学技術を支える物理学を広範囲に教育研究し、中学・高校の理科教育や情報技術、宇宙利用、材料開発など、社会の広い分野での活躍を目指す。

● 機械エネルギー工学コース

流体、熱、海洋エネルギーなどの有効利用を中心に学び、高度エネルギー利用技術に強い機械工学技術者として幅広い分野での活躍を目指す。

● メカニカルデザインコース

様々な産業分野における開発・設計・生産とそれらのシステムで必要となる機械工学分野の専門知識を学び、モノづくりに強い技術者としての活躍を目指す。

● 電気エネルギー工学コース

電気エネルギーの発生・変換・利用などの基礎技術を身につけ、工業・医療・農業などの様々な産業分野で活躍できる電気技術者を目指す。

● 電子デバイス工学コース

IoTを支える電子デバイス技術や情報通信を学び、ソフトウェアにも強いハードウェア技術者としてエレクトロニクスや情報通信分野での活躍を目指す。

● 都市基盤工学コース

安全・安心で豊かな地域社会の構築に貢献できる技術者として、都市基盤の整備・維持管理の分野での活躍を目指す。

● 建築環境デザインコース

建築・都市空間およびその周辺環境の整備・改善・保全に対してアイデアとリアリティに富む計画設計等ができる技術者として、地域創生への貢献を目指す。

What's ReBorn?

Q

サブフィールドPBLって何?

CHECK!

A.

グループで課題解決の演習を行います。

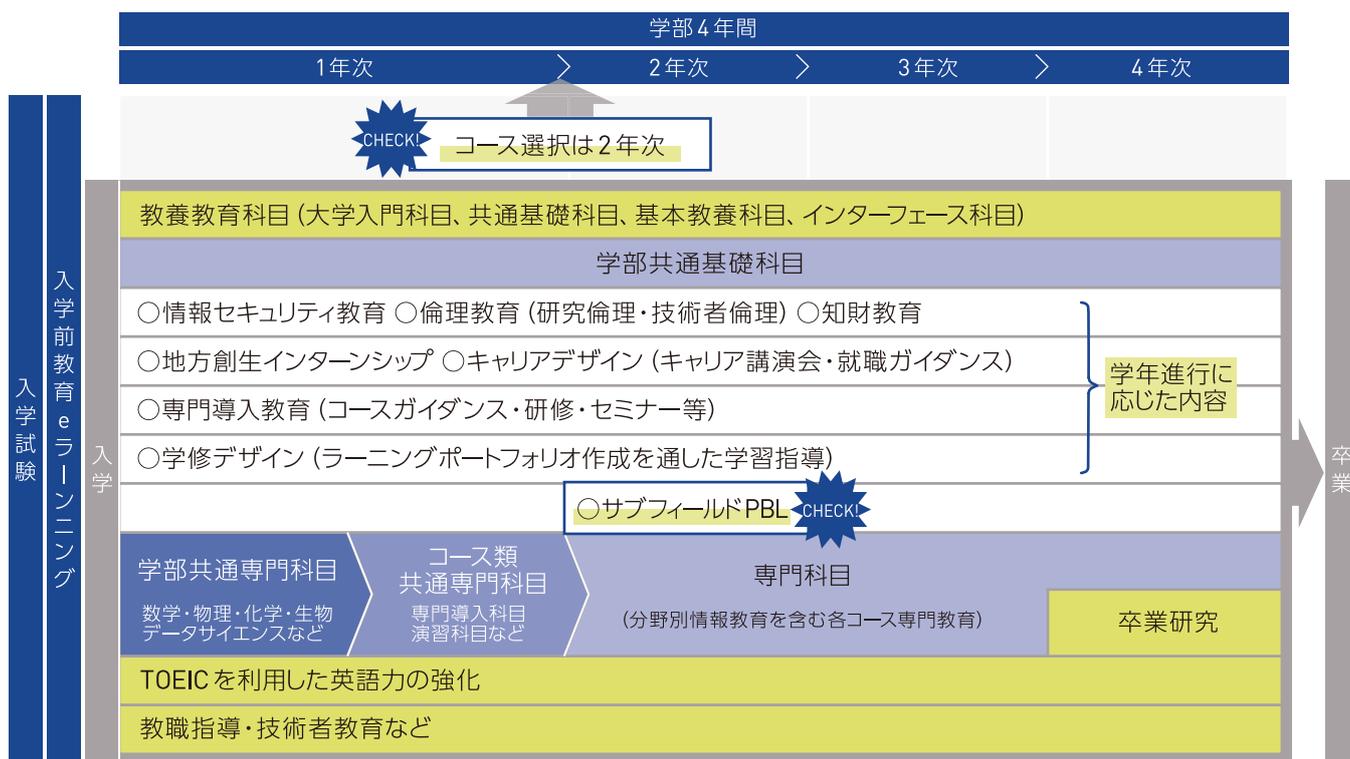
複眼的な視点から課題解決に取り組む力を身につけるため、まず、専門以外の分野＝サブフィールドの内容を広く学びます。その後、5名程度のグループでのPBL(Project Based Learning/Problem Based Learning) 演習によりさまざまな視点から問題を分析し課題解決に取り組めます。



専門知識を強化し、さらに 学んだ知識を活かすチカラを身につけます。

理工学部では、これまでの7学科を理工学科1学科とし、12の専門コースを設けます。理工学部全体を1学科にすることで、学生の皆さんは1年次には共通の専門科目により理工学の基礎を確実に身につけると同時に、社会から求められている情報関連技術や倫理・知財などの重要科目を学修基盤として学ぶことができるようになります。また、1年次後学期に3つのコース類に配属、2年次から12のコースに配属という段階的に専門を絞っていく仕組みにより、大学での学びを通して自身の適性や関心、将来の進路を見据えたコースの選択が可能になります。さらに、サブフィールドPBLやインターンシップなどの社会とつながった実践的な授業で複眼的な視点や俯瞰的視野を修得することができます。

教育カリキュラムの構成（理工学部）



Q

1年次の学びは？

A.

理工学の基礎を学び、
広い分野に対応できる
能力を養います。

1年次には、理工教育の要である数学、物理、化学、生物、データサイエンスなど理工学基礎力を強化します。また2年次でのコース選択のために、各コースの教育研究内容をあらかじめ紹介し、コース選択でのミスマッチを防ぎます。



Q

大学院科目の
先行履修って？

A.

在学中に大学院の
科目を履修すること
ができます。

3年次、4年次の学生に対しては、学部在学中に大学院科目を履修することを認め、大学院への入学後に大学院の単位として認定します。大学院入学後には、海外インターンシップなどに参加する余裕も生まれます。



Q

卒業後の進路は？

A.

理工学系を中心に、
多彩な選択肢が
あります。

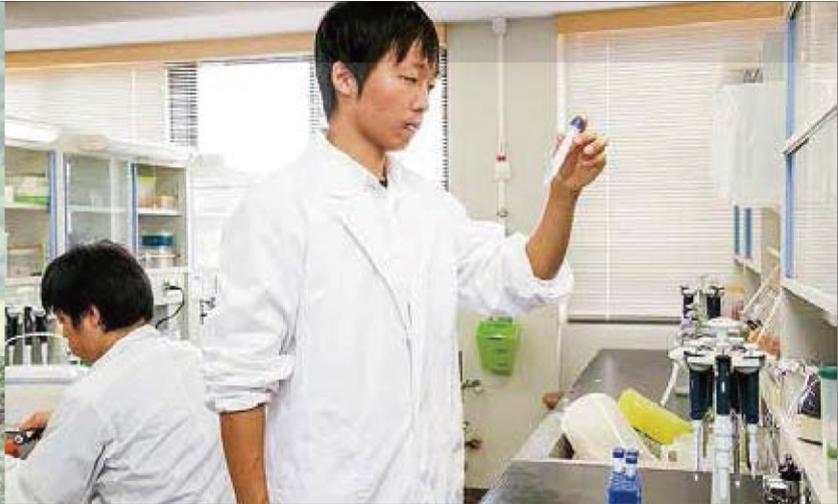
- 進学 (大学院修士課程)
- IT 関連企業
- 自動車関連企業
- エネルギー関連企業
- 建築設計関連企業
- 化学系企業
- 電機メーカー
- ゼネコン
- 公務員



農

Faculty of Agriculture

学部



新コースについて

● 生物科学コース

地域の特色ある生物資源を活用した、新規農産物や新品種の開発、効率的な生産技術の開発など、生物資源の開発と応用に関する教育研究を行うと同時に、地域の新産業の育成にも貢献します。

● 食資源環境科学コース

地球規模の課題ともなっている環境保全やエネルギー開発をはじめ、農業生産システムに関する先端技術の開発を行うことで、農業の技術革新を地方から先導し、地域の農業基盤を支えます。

● 生命機能科学コース

実験を重視したカリキュラムにより、食品・医薬・化粧品・環境などの分野における科学技術の発展を推進する能力を備えた人材を育成し、地域生物資源の活用に関する研究にも貢献します。

● 国際・地域マネジメントコース

農業ビジネス戦略や地域経済の振興につながる他産業との連携の構築、健康で豊かなくらしの基盤となる地域資源や環境の保全、農山漁村コミュニティの活性化など、国際的な課題を教育研究します。

What's ReBorn?

Q

キャリア教育とは？

CHECK!

A.

将来の職業や働き方を、1年次から考えていきます。

農業ICT学^{*}やアグリキャリアデザインなどの新しい科目の導入をはじめ、地元企業との産学連携によるIoT農業^{*}研究などを行うことで、ビジネスとしての農業を身近で感じ、広い視野でのキャリアデザインを支援します。また、国際・地域マネジメントコースでは、アジア農村での現地研修「アジア・フィールドワーク」や、国内外の企業や研究所などの仕事を実地体験する「国際・地域インターンシップ」などを開講します。国際社会においても活躍でき、よりグローバルな視点にたったキャリアデザインが可能です。

^{*}農業ICT学 ▶ICT(Information and Communication Technology 情報通信技術)を活用した農業への取り組みを、生産の効率化、高付加価値化、省力化、コスト削減などの多方面から考えます。佐賀県や企業と連携しながら、スマート農業技術の開発なども行っていきます。

^{*}IoT農業 ▶従来は人の手で行っていた生産管理から品質管理、流通、販売など、農業の生産から経営までをIoT(Internet of Things)やクラウドなどを利用して最適化を実現するスマート農業。

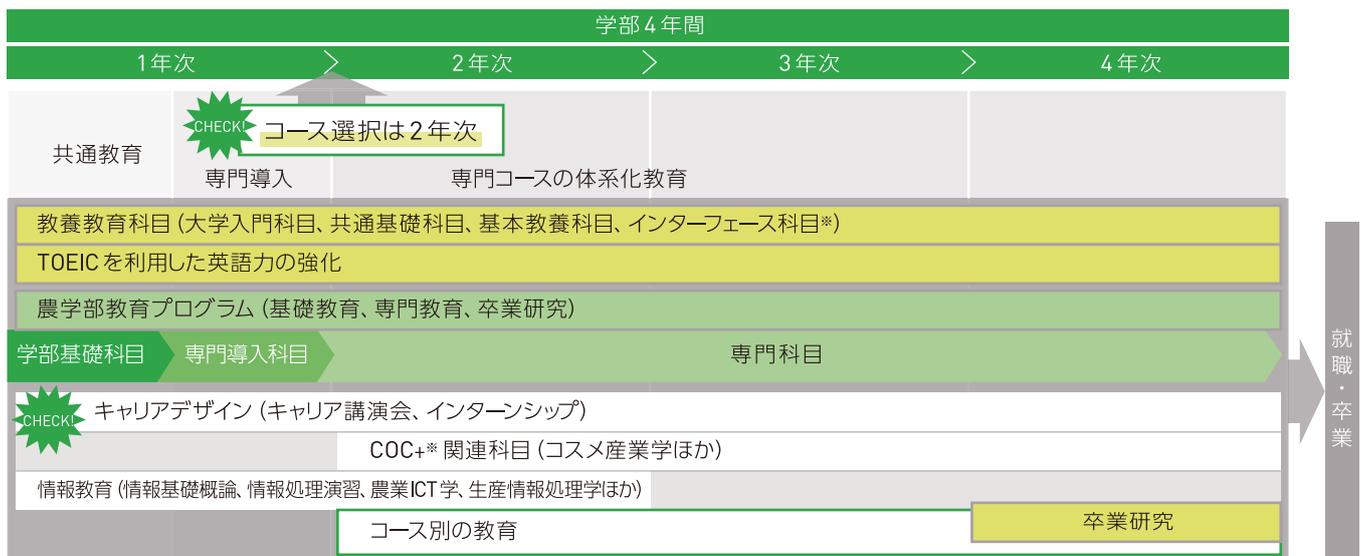


総合学問である農学を学び 地域創生のチカラを育みます。

農学は、農業および食料、生命、環境、情報、エネルギー、地域社会を対象とする教育研究分野が揃い、暮らしにも深く関連している総合学問です。その幅広い専門性を理解し、社会における応用力を養成するためには、まず農学全般にわたる基礎知識の充実と基礎学力の強化が不可欠です。そこで農学部では、従来の3学科体制から1学科体制とし、1年次にしっかりと農学に関する基礎知識を身につけた上で、2年次から4つの教育研究コースへと進んでいきます。

さらに、農業ICT学やアグリキャリアデザイン等の新たな授業科目を取り入れ、企業家精神や経営感覚に優れ、地域のリーダーとして活躍できる創造性豊かな専門職業人の育成を目指しています。

教育カリキュラムの構成（農学部）



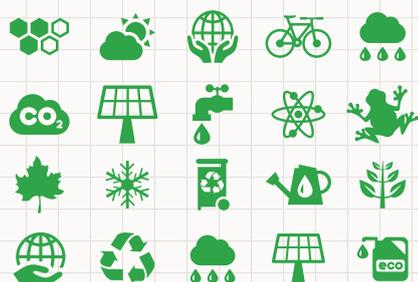
※インターフェース科目▶授業や演習で学んだ知識やスキルを、社会に活用していくための力を培うための科目です。「環境コース」「文化と共生コース」「生活と科学コース」「医療・福祉と社会コース」「地域・佐賀学コース」の5コースがあります。

※COC+▶さが地方創生人材育成・活用プロジェクト。「地(知)の拠点大学」として、地方公共団体や産業界と連携し、大卒者の地元就職率の向上と雇用の拡大・創出を進めます。農学部では、農業のIT化、六次産業化を図るとともに、コスメティック産業を担う人材育成に取り組んでいます。

Q 1年次の学びは？

A. 農学に関する幅広い知識を身につけます。

農学の基礎科目である生物学、物理学、化学を必修とし、深い専門性を身につける素地を構築します。1年次に農学に関する基礎知識を幅広く十分に修得した上で、2年次の専門コースを選択します。



Q 専門導入教育とは？

A. 2年次からの専門コースのための素養を身につけます。

農学の基礎科目を学んだ上で、さらに1年の後学期には専門導入科目を学びます。汎用性の高い基礎知識や技術を修得し、2年次からはじまる専門コースの教育に必要な幅広い素養を身につけることで、確かなマッチングを行います。



Q 卒業後の進路は？

A. 農業関連はもちろん、多彩な進路があります。

- 民間企業
(食品・製薬企業、農林水産業、卸売・小売業、金融・保険業、不動産業、建設業、教育学習支援業、サービス業など)
- 公務員 ○教員
- 進学(大学院修士・博士課程)





ReBorn 2019

佐賀大学

SAGA UNIVERSITY



佐賀大

検索

〒840-8502 佐賀市本庄町1 TEL. 0952-28-8178